

第一回「スウェーデン・ジャズ・ウィーク2023」開催のお知らせ

スウェーデン大使館とスパイス・オブ・ライフが主催する「スウェーデン・ジャズ・ウィーク2023」が本年5月16日（火）から23日（火）にかけ、宝生能楽堂、COTTON CLUB（丸の内）、Body&Soul（渋谷）、Sometime（吉祥寺）、Satin Doll（六本木）、浜離宮朝日ホール、Billboard Live YOKOHAMA、スウェーデン大使館内など東京の各所、および特別企画として東京以外では、Billboard Live OSAKA、熊本県 桜十字ホールやつしろで開催されます。

この音楽イベントはスウェーデン独立500周年となる今年のナショナルデー（6月6日）を日本でお祝いするために、スウェーデン大使館とスウェーデン・ジャズを長年にわたり日本に紹介しているレーベルのスパイス・オブ・ライフが企画したもので、今年が初の試みとなります。2023年をスタートに毎年ナショナルデーを祝う企画として開催される予定です。第一回目となる今回は、スウェーデンを代表するジャズ・ミュージシャンが来日して各所で演奏を繰り広げます。

都内の人気ジャズクラブやコンサートホールでのライブのほか、スウェーデン・ジャズと日本の伝統文化である能との初となるコラボレーションやスウェーデン大使館で期間中にフリーコンサートが毎日行われるなど（予定）、ジャズファンはもちろん、初めてスウェーデンのジャズや文化に触れるかたにも、心暖まるメランコリックなスウェーデン・ジャズを楽しんでいただける素敵な一週間です。

貴媒体におきまして、第一回「スウェーデン・ジャズ・ウィーク2023」の情報のご掲載のほどよろしくお願いいたします。

記

タイトル：スウェーデン・ジャズ・ウィーク2023

開催日： 2023年5月16日（火）～5月23日（火）

会場： 宝生能楽堂、COTTON CLUB、Body&Soul、Sometime、Satin Doll、
浜離宮朝日ホール、Billboard Live YOKOHAMA、スウェーデン大使館ほか

出演アーティスト：Lars Jansson Trio（ラーシュ・ヤンソン トリオ）

Isabella Lundgren & Her Trio（イザベラ・ラングレン トリオ）

Ulf Wakenius Group（ウルフ・ワケーニウス グループ）

制作： スパイス・オブ・ライフ

共催： スウェーデン大使館

協賛： イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社

ガデリウス・ホールディング株式会社

スカンジナビア・ニッポン・ササカワ財団

リンク先：スウェーデン大使館： <https://swedendigitalvillage.jp/>

スパイスオブライフ： <http://www.spiceoflife.co.jp/>

<参加アーティストプロフィール>

Lars Jansson Trio（ラーシュ・ヤンソン トリオ）

Lars Jansson(P), Thomas Fønnesbaek(B), Paul Svanberg(Dr)



ラーシュ・ヤンソンは現代ヨーロッパを代表するジャズピアニスト、作曲家。1990年には、スウェーデンの優秀なジャズミュージシャンに与えられるヤン・ヨハンソン音楽賞を受賞する。1999年以降は数多く来日し、日本各地でライブ演奏を精力的に行い多くの熱烈なファンを獲得、日本における北欧・スウェーデンジャズ人気の立役者の一人である。

Isabella Lundgren & Her Trio（イザベラ・ラングレン トリオ）

Isabella Lundgren(Vo), Daniel Fredriksson(Dr), Carl Bagge(P), Niklas Fernqvist(B)



イザベラ・ラングレンはアルバム「It Had To Be You」でデビュー。このアルバムは日本で2013年4月に発売され一躍大きな人気を博した。2014年の第2弾アルバム「Somehow Life Got In The Way」でアルバム・オブ・ジ・イヤーを獲得。女性シンガーとしての同賞受賞は39年ぶりの快挙。2015年9月の待望の新作「イザベラ・シングス・ハロルド・アーレン」の発売を記念し、自身初の日本ツアーを行い大成功を収めた。2018年はスウェーデンと日本の友好条約締結150周年を記念し、「旅」にまつわる名曲を集めた最新アルバム「ヒット・ザ・ロード・トゥ・ドリームランド/ Hit The Road To Dreamland」を発売しそれを記念した来日公演が行われた。

Ulf Wakenius Group（ウルフ・ワケーニウス グループ）

Ulf Wakenius(G), Ove Ingemarsson(Ts), Hans Backenroth(B), Calle Rasmusson(Dr)



ウルフ・ワケーニウスはギター奏者で、1958年スウェーデンのノルムスタッドに生まれる。現代スウェーデン・ジャズ界で最も国際的な活躍をしているアーティストであり、オスカー・ピーターソンが現代最高のギター奏者と絶賛したプレイヤーである。

2006年6月に「Cake Walk」2008年1月に「Easy Does It」をリリース。2008年秋にIn The Spirit Of Oscarは来日公演を行い大成功を収めた。

協賛各社ロゴ



＜コンサート・スケジュール＞

日程	会場	内容	チャージ	
5月16日 (火)	宝生能楽堂	イザベラ・ラングレン & Her Trio 「能とスウェーデン・ジャズの邂逅」	¥4,000	お問合せ： http://www.hoshoo.or.jp/nohgakudo_schedule/
5月17日 (水)	COTTON CLUB (丸の内)	スウェーデン・オールスターズ ラーシュ・ヤンソン・トリオ、ウルフ・ワケーニウス・グループ イザベラ・ラングレン & Her Trio 他	¥8,000 [1st.show] 開場 17時 開演 18時	¥8,000 [2nd.show] 開場 19時30分 開演 20時30分
5月18日 (木)	Body & Soul (渋谷)	ウルフ・ワケーニウス・グループ	¥7,000 開場：18時30分 開演：19時30分	
5月18日 (木)	Sometime (吉祥寺)	ラーシュ・ヤンソン・トリオ	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月18日 (木)	Satin Doll (六本木)	イザベラ・ラングレン & Her Trio	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月19日 (金)	Body & Soul (渋谷)	ラーシュ・ヤンソン・トリオ	¥7,000 開場：18時30分 開演：19時30分	
5月19日 (金)	Sometime (吉祥寺)	イザベラ・ラングレン & Her Trio	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月19日 (金)	Satin Doll (六本木)	ウルフ・ワケーニウス・グループ	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月20日 (土)	Body & Soul (渋谷)	イザベラ・ラングレン & Her Trio	¥7,000 開場：18時30分 開演：19時30分	
5月20日 (土)	Satin Doll (六本木)	ラーシュ・ヤンソン・トリオ	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月20日 (土)	Billboard Live YOKOHAMA	ウルフ・ワケーニウス・グループ	¥7,800(S席) ¥7,300(C席) /1D付 [1st.show] 開場：15時 開演：16時	¥7,800(S席) ¥7,300(C席) /1D付 [2nd.show] 開場：18時 開演：19時
5月22日 (月)	Sometime (吉祥寺)	ウルフ・ワケーニウス・グループ	¥7,000 開場：18時 開演：19時	
5月22日 (月)	Billboard Live YOKOHAMA	ラーシュ・ヤンソン・トリオ	¥7,800(S席) ¥7,300(C席) /1D付 [1st.show] 開場：15時30分 開演：16時30分	¥7,800(S席) ¥7,300(C席) /1D付 [2nd.show] 開場：18時30分 開演：19時30分
5月23日 (火)	浜離宮朝日 ホール	Seiko Presents “Seiko Starry Night Concert” Vol.28 出演：イザベラ・ラングレン & Her Trio、森山良子	¥5,000 (全席指定)	お問合せ：パルク ニック03-3470- 1155 (平日12時～18時)

＜イザベラ・ラングレン & Her Trio 特別企画コンサート＞

5月27日 (土)	桜十字ホール やつしろ (熊本県)	「八代まちなか音楽祭」 イザベラ・ラングレン & Her Trio	チケット 無料	
5月28日 (日)	Billboard Live OSAKA	イザベラ・ラングレン with アロージャズ・オーケストラ	¥8,500(S席) ¥8,000(C席) /1D付 [1st.show] 開場：15時 開演：16時	¥8,500(S席) ¥8,000(C席) /1D付 [2nd.show] 開場：18時 開演：19時

各会場URL一覧

宝生能楽堂： <http://www.hoshoo.or.jp>
 COTTON CLUB： <http://www.cottonclubjapan.co.jp>
 Body & Soul： <https://www.bodyandsoul.co.jp>
 Sometime： <https://www.sometime.co.jp/sometime/>
 Billboard Live YOKOHAMA： <http://www.billboard-live.com/pg/shop/index.php?mode=top&shop=4>
 浜離宮朝日ホール： <https://www.asahi-hall.jp/hamarikyuu/>
 Billboard Live Osaka： <http://billboard-live.com/pg/shop/index.php?mode=top&shop=2>

[お問い合わせ]

イベント取材依頼・質問などはスウェーデン大使館広報担当まで
 アダム・ペイエ（日本語可）広報担当官 adam.beije@gov.se 080-4138-6414
 中村裕美 広報アシスタント hiromi.nakamura-johnson@gov.se 080-4469-7529

[プレスリリースに関するお問い合わせ、取材依頼]

ニキータプラス 小西敦子 konishi@nikitaplus.net 090-8742-4018

[運営]

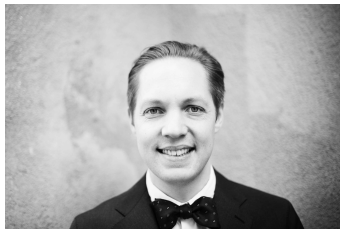
株式会社スパイスオブライフ
 〒413-0002 静岡県熱海市伊豆山1084-44
 TEL:0557-88-3520 FAX:0557-88-3521

Isabella Lundgren & Her Trio (イザベラ・ラングレン トリオ)



Isabella Lundgren(Vo)

イザベラ・ラングレンはスウェーデン人の心の故郷、ヴェルムランド地方で生まれる。18歳の時にニューヨークのニュースクールに入学。22才でアメリカ留学からストックホルムに帰国後、その実力を認められてデビューアルバム「It Had To Be You」でデビュー。このアルバムは日本で2013年に発売され一躍大きな人気を博した。2014年3月にはスイート・ジャズ・トリオのゲストシンガーとして初来日。同年に発売された彼女の第2弾アルバム「Somehow Life Got In The Way」は2015年スウェーデンの有力ジャズ専門誌オルケスタ・ジャーナルでアルバム・オブ・ジ・イヤーを獲得。女性シンガーとしての同賞受賞は39年ぶりの快挙であり、スウェーデンを代表する若き歌姫へと大きく飛躍した。2015年には待望の新作「Isabella sings treasures of Harold Arlen」が発売され、このアルバム発売を記念して11月に彼女自身初の日本ツアースタンダード・ナンバーをこよなく愛するシンガー、イザベラ・ラングレン。益々円熟味を増したノスタルジックで甘美な歌声は聴く人の心を捉えて離さない。



Carl Bagge(P)

カール・バッゲは1980年生まれのスウェーデンを代表するピアニスト、作曲家、アレンジャー。彼はスウェーデンの誇るジャズ・レジェンド、バート・ローゼングレンやフレデリック・ノーレンとの共演でスタートを切ったが、現在はスウェーデンを代表するジャズ・シンガー、イザベラ・ラングレンと10年以上にわたってツアー、アルバム制作などのコラボレーションを行っている。その他にも2007年にスウェーデンのポップスター、ロビンのヒット曲を共作してストリングスアレンジメントを担当。またスウェーデンのミュージカルの作曲・スコアリング、そしてパー・エクダールと双頭のビッグバンド、エクダール/バッゲ・ビッグバンドのリーダーでもある。華麗なピアノタッチが心に響くピアニストとして最も多忙なミュージシャンの一人。



Niklas Fernqvist(B)

ニクラス・ファークヴィストはスウェーデンの若手ベーシストとして多くのミュージシャンに熱い信頼を得ているスター・ベーシストの一人である。これまでリーナ・ニーベリ、ヨアキム・ミルダー、ヴィヴィアン・ヴクゼク、マーティン・ショーステッドなどなどスウェーデンを代表するアーティストと共演、スウェーデンジャズ界を牽引する活躍をしている。彼の力強いビートはジャズベース本来のグルーブ感を持っており、国際的な活躍が期待されている。



Daniel Fredriksson(Dr)

ダニエル・フレデリクソンは洒脱で心地よくスイングするドラミングで人気のダニエル・フレデリクソン。ヤン・ラングレン、リーグモル・グスタフソン、マグナス・リングレンなど著名なミュージシャンと共演を重ねた経験豊かな彼はスウェーデンを代表するドラマーの一人であり、スウェーデンジャズ界の若きリーダーの一人としてあらゆる方面で積極的に演奏活動、プロデューサー活動を行っている。ジャズのドラミングに対する研究熱心さは皆の知る所であり、スイングのスタイルからモダンなビートまで、あらゆるテクニックとアイデアを持つ魅力溢れるドラマーである。

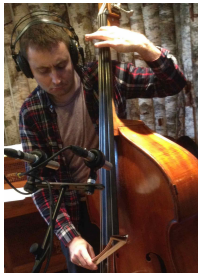


Lars Jansson Trio (ラーシュ・ヤンソン トリオ)



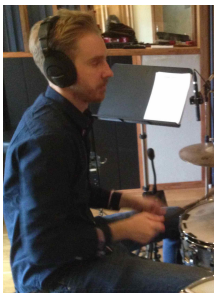
Lars Jansson(P)

ラーシュ・ヤンソンは現代ヨーロッパを代表するジャズピアニスト、作・編曲家、プロデューサー。1951年2月25日、スウェーデン中部オーレブロ市に生まれる。7歳の頃よりピアノを始める。70年にイエーテボリ大学歯学部に入學、歯医者を目指す。72年、音楽への情熱を棄て難く同大学音楽学部へ編入する。74年に同校を卒業後、75年ノルウェーのアリルド・アンデルセン・グループを皮切りに、数々の北欧のトップグループに参加。79年、自己のトリオを結成。87～88年、ヤン・ガルバレック・グループに参加し、世界各地でコンサート活動を行う。90年には、スウェーデンの優秀なジャズミュージシャンに与えられるヤン・ヨハンソン音楽賞を受賞する。またこの年には、当時スウェーデンに在住していたジャズベース界の巨匠の一人レッド・ミッチェルのトリオにも参加している。98年、デンマーク政府からの要請により、デンマークで初めてジャズの教授としてオールヒュス国立音楽大教授に就任。数多くの優秀なミュージシャンを育成した。99年以降は数多く来日し、日本各地でコンサートを精力的に行い多くの熱烈なファンを獲得、日本における北欧・スウェーデンジャズの人気を向上させた立役者の一人である。2016年に自身の代表作をセルフカバーしたアルバム「More Human」を発表、大ヒットを記録。さらに2018年10月に最新作「Just This」を発売し精力的な音楽活動を続けている。2022年にはSwedish Music Academy賞をスウェーデン国王より受賞。これでまた一つ彼に大きな栄誉が加わった。日本をこよなく愛し、その歴史や文化、そして仏教に造詣の深いラーシュ・ヤンソンの一層の活躍が楽しみだ。



Thomas Fønnesbaek(B)

トーマス・フォネスバックは1977年デンマーク、エルシノア生まれ。17才からコペンハーゲン在住。ジャズが大好きだった父の影響で幼いころからジャズを聴いて育つ。若くしてエレキベースを始め、世界的に有名なベーシスト、ニルス・ヘニング・オルステッド・ペデルセンの生徒となる。1996年には将来が最も期待される有能な音楽家としてElsinore Comet 賞を受賞。1997年にはソロ・ベーシストとしてBerlingske Tidende ミュージックコンテストで優勝、同年European Jazz Contest で準優勝を飾る。1999年にRhythmic Music Academy に入学するが、既にプロのベーシストとしてコンサートにレコーディングに多忙を極めていたために辞めることを余儀なくされる。こうしてトーマスの活動はデンマークのみならず北欧とヨーロッパにその活動を広めて行き、ラーシュ・ヤンソン、ウルフ・ワケーニウス、シーネ・エイ、シッドセル・ストローム、ジャッキー・テラソン、ハーヴィー・メイソンなど多くのプレイヤーと演奏活動を行っている。2013年5月に初のリーダー作品「Sound of My Colors」を発表。北欧を代表するベーシストの一人である。



Paul Svanberg(Dr)

ポール・スヴァンベリーは1984年スウェーデン、イエテボリに近いユングシール生まれ。4才の時に父親でピアニストのラーシュ・ヤンソンから最初のドラムセットをプレゼントされる。ウデバラで音楽を学び、ドラムのレッスンを受ける。ユングシールのフォーク高校で2年間、その後ストックホルム音楽院で2005年から2008年の3年間音楽を学ぶ。これまで北欧の数多くのミュージシャンと共演、2008年にはスペインのビルバオで行われた若手音楽家のためのコンペティションでクリスチャン・ブリンク・カルテットの員として優勝。CDはそのクリスチャン・ブリンク・カルテット「ジャズ・ゲツオー」、西山隆の「ライブ・イン・ストックホルム」など。現在はスウェーデンを代表する若手ドラマーとしてラーシュ・ヤンソン・トリオのほか、多くのトップ・グループでのコンサート、レコーディングに参加し、最も注目される若手ドラマーとして大活躍している。



Ulf Wakenius Group (ウルフ・ワケーニウス グループ)



Ulf Wakenius(G)

ウルフ・ワケーニウスは1958年スウェーデンのハルムスタッドに生まれる。現代スウェーデン・ジャズ界で最も国際的な活躍をしているアーティストの一人であり、オスカー・ピーターソンが現代最高のギター奏者と絶賛したプレイヤーである。80年代はギター・デュオ・グループの『ギターズ・アンリミテッド』で活躍、80年代後半には自己グループ『ウルフ・ワケーニウス・グループ』を結成。キーボードがラーシュ・ヤンソン、ベースがラーシュ・ダニエルソン、テナー・サククスがオーベ・イングマルソンというスーパーバンドで高い人気を得た。その後、ハービー・ハンコック、レイ・ブラウン、ジョー・ヘンダーソンらとヨーロッパで共演。95年にオスカー・ピーターソン・カルテットのレギュラー・メンバーに抜擢され活躍の舞台を世界に広げ注目を集めることになる。ソロ・プロジェクトとしては2003年に発売された、『Tokyo Blue』はウルフにとって初の日本国内版デビュー作、第2弾『Checkin'Inn』(2004年)、ソロ・アルバム『Eternity』(2005年)が発売され、驚異的なテクニックとメロディアスで良く歌うギタースタイルで人気を不動のものとした。更にウルフがオスカー・ピーターソンから学んだジャズスピリットを継承していこうと結成されたグループIn The Spirit Of Oscarとして2006年に『Cake Walk』、2008年に『Easy Does It』をリリース。2008年秋In The Spirit Of Oscarは来日公演を行い、大成功を収めた。



Ove Ingemarsson(Ts)

オーヴェ・イングマルソンは1957年スウェーデンハルムスタッドの生まれ。クラリネットを専攻したがテナー・サククスに変更。1981年にロニー・ヨハンソン・カルテットで初のレコーディングを行う。スウェーデン・ラジオ・ジャズ・オーケストラ、ストックホルム・ジャズ・オーケストラ、ホーク・オン・フライト、ウルフ・ワケーニウス・グループ、などのグループに参加。彼の美しい音色とテクニックはボブ・バーク、ボブ・ミンツァー、ジェリー・ベルゴンジーらに絶賛されている。1995年に初のリーダー・アルバム『Heart of The Matter』をラーシュ・ヤンソン、ラーシュ・ダニエルソン、アダム・ナスバムと発表。2010年には北欧をリードするテナー・サククス・プレイヤーと評価され、スウェーデン・ジャズ・ファウンデーション賞を受賞。2013年には『Everything I Love』をラーシュ・ヤンソン・トリオ・ウイズ・オーベ・イングマルソンとしてリリースし、アルバム発売を記念してラーシュ・ヤンソン・トリオと共に日本ツアーを行った。豪快、かつ繊細なテナー・サククスは日本でも多くのファンを持っている。



Hans Backenroth(B)

ハンス・バックェンロスは1966年カールスタッド出身。8歳でギターを始め、2年後エレキベースに変更し、フュージョンとロックのバンドで演奏していた。1985年ポール・チェンバースに影響を受けたことからウッドベースに転向する。1986年ストックホルムに移りロイヤルアカデミー音楽院に入学。数々のスウェーデン・トップジャズ・ミュージシャン、及び海外の有名ジャズ・ミュージシャンと共演を通し優れた演奏能力が高く評価されている。日本ではSweet Jazz Trioのメンバーとして数多くの来日をし、メロディアスなベースで高い人気を誇る。また、ウルフ・ワケーニウスを中心としたIn the Spirit of Oscarのメンバーとしても活躍し日本のジャズファンには馴染みの深いスウェーデンを代表するベーシストである。



Calle Rasmusson(Dr)

カレ・ラスマスソンは0年代初頭よりストックホルムを中心にスウェーデン・ジャズ界を牽引してきたドラマーの一人。トラディショナルなスタイルに根差しながらあらゆるジャンルのジャズのスタイルをカヴァーし、編曲家、プロデューサーとしてもキャリアを積んで来た。彼の編曲家としての意図はドラマーとしての立場と同じく、アーティストの魅力を活かしながらより一層大きな絵を描けるようにするものである。彼はマルガレータ・ベנקトソン、リグマール・グスタフソン、チャカ・カーン、ヴィクトリア・トルストイなどなど著名なアーティストとコラボレーションを行って来た。シャープでステディなドラミングとストリングスを交えたオーケストレーションに定評のある逸材である。